

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02350

研究課題名(和文) 革命前ロシアにおける娯楽文化としての中小音楽劇場 上演演目・批評・受容の研究

研究課題名(英文) Study on Entertainment and Culture at Small and Medium-sized Theatres in Pre-revolutionary Russia: Repertoire, Criticism and Perception by the Audience

研究代表者

平野 恵美子 (Emiko, Hirano)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・準研究員

研究者番号：30648655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：革命前のロシアでは、資本主義が発達し、皇族や貴族だけではなく、大勢の一般市民も劇場に足を運ぶなど、娯楽を楽しんだ。劇場の数も増え、マリインスキー劇場やボリショイ劇場といった帝室や官制の主要な劇場だけではなく、マーモントフの私立オペラやジミーン・オペラなど、裕福な資本家達による劇場の経営が拡大した。また、当時の植民地経営やいわばグローバルゼーションにより、日本やインドネシアなど欧州以外の国々からの公演も行われた。このように豊かになった劇場文化の様相に光を当てることが出来たと考える

研究成果の学術的意義や社会的意義

最近ではロシアでも、革命前の劇場文化に注目が集まっており、一般の音楽愛好家にはその一端しか知られていなかった様相の豊かさや深さを伝えると共に、上述のように、当時の西欧と東洋の芸術活動における交流の一端も明らかにすることが出来た。また、失われた演目の復活や、上演時に情報を提供できた。芸術文化には不変の価値があり、政治体制や経済の状態で、ロシアという国を好意的に思っていない日本人も、音楽など芸術の魅力でロシアに対する考えが肯定的に変わる可能性があり、本研究は二国間の友好に大いに貢献すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In pre-revolutionary Russia, the development of capitalism meant that it was not only the imperial family or the nobility who enjoyed entertainment such as going to watch performances but also ordinary citizens. The number of theatres consequently increased and private theatres such as Mamontov's private opera or the Zimin opera run by wealthy capitalists opened alongside the Imperial or government-controlled theatres. Furthermore, due to colonization or globalization of the time, companies from other parts of the world such as Japan or Siam traveled to perform in Europe. In my study, I have been able to shed light on different aspects of the rich and prosperous theatrical life of Russia in the late nineteenth and early twentieth centuries.

研究分野：ロシア芸術文化研究

キーワード：ロシア音楽 帝室劇場 マーモントフ ジミーン・オペラ ザデラツキー マリインスキー劇場 ボリショイ劇場 ロシア・オペラ

1. 研究開始当初の背景

ロシアは文学など豊かな芸術文化の国として知られ、とりわけ音楽では優れた作曲家や演奏家を多数輩出し、バレエも含め、ポリショイ劇場やマリインスキー劇場のオペラやオーケストラの人気は世界的に非常に高い。それゆえロシアの楽曲や作曲家に関する研究は国内外で盛んである。しかしそれに比べると、19世紀末から20世紀初頭の劇場文化研究は偏りがある。上述のポリショイ劇場やマリインスキー劇場は、『帝室劇場年鑑(*Ezhegodnik imperatorskikh teatrov*)』という劇場の活動を詳細に記した資料が1890年から革命(1917年)まで発行されており、これを元に様々な角度から行なえる研究の可能性が大きい。また、私立マーモントフ・オペラ団は、その先進的な活動内容と帝室劇場にも影響を与えたほどの存在で、いくつか研究が存在する(V.P.Rossikhina, *Opernyj teatr S. Mamontova*, 1985, Olga Haldey, *Mamontov's Private Opera*, 2010等)。(ただしその数は決して多くないし、日本語ではマーモントフ・オペラ団ですら論文等を除くとこれをテーマとして出版された書籍は現時点ではない。)だがマーモントフ・オペラ団は唯一の私立オペラ団ではないし、これが台頭したのは、私立のオペラ団の発展を支える商業主義の成長があったからで(主催者のサツヴァ・マーモントフも富豪の商人で資本家だった)それゆえ同オペラ団以外にも、事業家による私立の劇団や劇場があったし、また帝室劇場以外に「人民の家(Narodnyj dom)」という劇場もあり、人々の娯楽生活を豊かなものにしていった。しかし帝室劇場、私立マーモントフ・オペラ団以外の音楽研究は殆ど見かけないし、インターネット上の情報も少なく、あたかもその他の劇場が存在しなかったかのような印象すら受けることがある。公立の劇場に関しては、ソ連末期から刊行された『ロシア音楽事典(*Istoriya russkoi muzyki*)』(全11巻)が扱ってはいるものの、大衆文化の全貌はわかりづらい。

応募者のロシア芸術文化研究は、バレエ・リュスから始まった。セルゲイ・ディアギレフが率いた私立のバレエ団で、1909年が西欧初演とされ(その3年前からロシア音楽を西欧に紹介する公演は行なっていた)バレエのみならず20世紀の西欧の芸術文化に大きな影響を与えたとされる。バレエ・リュスのメンバーの多くが帝室劇場に所属していたか何らかの関わりがあり、当時、バレエ・リュスのロシア時代に関する研究はあまり行なわれていなかったため、これが応募者の主な研究対象となり、そこから革命前の帝室劇場におけるオペラとバレエ全般の研究にまで広がった。それまでに既に『帝室劇場年鑑』を用いて、1890-1910年(20年間)のポリショイ劇場とマリインスキー劇場における、オペラとバレエのレパートリーとその上演回数を調べ、一部(1900-1910年の10年間)は博士論文『バレエ《火の鳥》の起源：20世紀初頭ロシア文化と帝室劇場』(2010)の付録として公開しており、残りも順次、公開・発表予定だった。

帝室劇場について調べるうちに、マーモントフの私立オペラ団が非常に重要な存在であることがわかってきた。皇帝による検閲がある帝室劇場に比べて、私立のオペラ団は演目選択の自由があり、例えば1890年代に帝室劇場で冷遇されたリムスキー＝コルサコフの作品を取り上げ評判になり、1900年代の帝室劇場でこの作曲家が返り咲くための一助となった。また、マーモントフはオペラ団の経営以外に、モスクワ郊外のアブラムツェヴォの領地に画家達を集めて保護し、芸術家のコロニーを作り、ここでの活動は当時のロシア芸術復興運動を牽引することとなった。この新進の画家達は当然、マーモントフの私立オペラ団に協力し、その舞台美術や衣装は帝室劇場を凌ぐほどの素晴らしさで(当時、帝室劇場ではアカデミックな画家達ではなく、舞台芸術職人が専門的に仕事をしていった)ついに帝室劇場がこれらの画家達を専属舞台芸術家として雇い入れることになった。また、マーモントフはディアギレフのスポンサーでもあり、ディア

ギレフが発行していた『芸術世界』誌に出資し、画家達はバレエ・リュスとも深く関わった。アブラムツェヴォでの活動について、応募者はこれまで博士論文の中でも取り上げ、インターネット上に私的な記事も公開している(http://chemodan.jp/chemodan_no07_pc/index.html?article=24)。そこでも触れたが、マーモントフの私立オペラ団は、ロシア貴族の領地(ウサージバ)における私的な演劇上演の楽しみ(農奴劇場などもここに含まれる)にルーツがある。ロシアでは一般的に、ポリショイ劇場やマリインスキー劇場が有名だが、ロシアの最初期のオペラとされる《粉屋は魔法使いで詐欺師で中人》(1779)は貴族の私邸で初演され、歌手のネジダノワに献呈されたラフマニノフの有名な歌曲「ヴォカリーズ」は私立のネズロピン劇場で初演されるなど、私邸や私立の劇場での活動を無視しては、ロシアの音楽活動の全貌や人々の娯楽生活の実態を知ることにはできないという確信が研究を進めるにつれますますます強まった、というのが着想に至った経緯である。

2．研究の目的

本課題は、19世紀末から20世紀初頭のロシアにおける、これまであまり研究の進んでいなかった中小の音楽劇場について調査することにより、革命前ロシアの商業主義と娯楽文化の実態の究明を目指す学術的な研究である。具体的には、首都サンクトペテルブルクとモスクワを中心に、公立と私立の中小音楽劇場の上演演目や批評の調査を行ない、マリインスキー劇場やポリショイ劇場などの帝室劇場や私立マーモントフ・オペラ団など、ある程度、研究の進んでいる劇場と比較・考察することで、これまであまり解明されていなかった、革命前ロシア音楽劇場文化の全体像に迫りたい。またこれにより、商業主義発展の過程で劇場文化が人々の娯楽生活に果たした役割に着目し、ソ連時代を経て、今日のロシア芸術文化の中にどのように定着したかを考察する。

3．研究の方法

本課題の研究方法は、まず先行文献等を頼りに、19世紀末から20世紀初頭のサンクトペテルブルクとモスクワの中小の音楽劇場の公演情報(上演演目、出演者等)や批評の収集を行なう。それらは、ロシア内外の演劇関係の博物館や図書館、公文書館等に保管されている、当時のプログラムや写真、新聞や雑誌に掲載された記事等である。次にこれらの公演情報や批評を分析し、既に明らかになっている帝室劇場や私立マーモントフ・オペラ団の公演記録や研究結果と比較し、革命前ロシアの劇場文化と娯楽生活の概要を明らかにする。また、研究対象に近い国内外の研究者と研究会やワークショップを開く等して、調査結果を検討したり、意見・情報交換を行ったりする。

先述のように、19世紀末から20世紀初頭における中小の音楽劇場の先行研究は少ない。その理由として、『帝室劇場年鑑』のようにまとまった一次資料がないということが挙げられる。しかし当時の新聞や雑誌などを丹念に調査することによって、上演演目や出演者等の情報、公演批評等を収集することは可能である。応募者がターゲットとする時代の、有効な一次資料としての新聞や雑誌を所有している図書館は国内には非常に少ないが、北海道大学のスラブ・ユーラシア研究センター図書室に *Moskovskie Vedomosti*(1873-1917)や *Rech'*(1906-1917、欠号あり)が所蔵され

ている。また同図書室には、20世紀前半に出版された、二次資料としての関連する研究書も多く所蔵されている。関連する音楽関係の研究書は、関東では、東京芸術大学附属図書館や東京文化会館の音楽資料室に所蔵されていることが多いが、充実しているとは言えない。それゆえ、国内では北海道大学で資料調査をするのが効率的と考えられる。それ以外の資料は、ロシアを中心とする海外での調査になるが、ロシアという国の特殊な事情により、同じ資料でも、帝政時代に併合されていたフィンランドの国立図書館（ヘルシンキ）や、大英図書館（ロンドン）の方が、アクセスが容易な場合がある。また、日本とロシアだけではなく、その他の海外の研究者とも連絡を取り、意見や交換情報を行ったり、国際会議等でも積極的に報告したりする。

4．研究成果

最近ロシアでも、革命前の劇場文化に注目が集まっており、一般の音楽愛好家にはその一端しか知られていなかった様相の豊かさや深さを伝えると共に、上述のように、当時の西欧と東洋の芸術活動における交流の一端を明らかにすることが出来た。また、失われた演目の復活や、作品の情報を提供できた。

当初の予定では、上述のように、帝室劇場と私立マーマントフ・オペラ団以外の中小の音楽劇場の上演実態を調査するつもりだったが、結果として、帝室劇場のオペラとバレエのレパートリーと上演回数の調査の進展、アルセニー・コレシチェンコというロシア後期ロマン派の忘れられた作曲家、フセヴォロド・ザデラツキーというロマノフ家と関わりが深い、それゆえ革命後に迫害され、抹消された作曲家の作品の調査と当時の受容に関する研究が、一定の進捗を見せた。

これらの研究結果は、日本国内だけではなく本国ロシアでの国際学術会議でも報告し、高い評価を受けた。また、学术界だけではなく、コレシチェンコとザデラツキーの楽曲の一般向けのコンサートも企画・開催し、研究成果を広く一般に還元することができた。

芸術文化には不変の価値があり、政治体制や経済の状態で、ロシアという国を好意的に思っていない日本人も、音楽など芸術の魅力でロシアに対する考えが肯定的に変わる可能性があり、本研究は二国間の友好に大いに貢献すると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 33-34
2. 論文標題 ロシア革命と日本におけるバレエの受容 - 亡命ロシア人がもたらしたもの -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SLAVISTIKA	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 7
2. 論文標題 マリウス・プティパとロシア帝室劇場の作曲家たち	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ダンスマガジン	6. 最初と最後の頁 42-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Emiko Hirano	4. 巻 無
2. 論文標題 Reception of the classical ballet in Japan and the dialogue between two traditions. Marius Petipa on the World Ballet Stage.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Marius Petipa on the World Ballet Stage	6. 最初と最後の頁 163-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Emiko Hirano	4. 巻 無
2. 論文標題 Perception of Dance and Ballet from Georgia in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Dialogue between Georgia and Japan	6. 最初と最後の頁 89-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 12
2. 論文標題 【資料紹介とデータの集計結果】1890-1910年のロシア帝室劇場におけるオペラのレパトリー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 プロジェクト研究	6. 最初と最後の頁 117-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 100年前のパリで日本人女優を見出した伝説の舞踊家、ロイ・フラーを知っていますか ダンス界「日仏交流」の意外な歴史	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クーリエ・ジャポン (WEB)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 甘美で繊細なラフマニノフの音楽は、同時代の批評家からはボロカスだった 「歌謡曲」「ヘタレ」呼ばわりされても偉大な理由	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クーリエ・ジャポン (WEB)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Emiko Hirano
2. 発表標題 Anna Pavlova and her influence in Japan
3. 学会等名 An International Scientific Conference "The Heritage of The Russian Seasons (Les Saisons Russes). XXI Century or Ballets Russes Version 2.0"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Emiko Hirano
2. 発表標題 Marius Petipa's last choreography, "The Magic Mirror", and its music by Arseniy Koreshchenko
3. 学会等名 The International Museum and Theatre Forum "World Theatre Heritage: Preservation and Represervation in the Museum Space"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nadine Meisner, 企画・通訳: Emiko Hirano
2. 発表標題 Marius Petipa, The Man, The Choreographer And His First Big Success, The Pharaoh's Daughter
3. 学会等名 英国著名ダンス・ジャーナリストNadine Meisner氏講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Emiko Hirano
2. 発表標題 Progress and New Changes in 1890's and in 1900's in the Imperial Theatres in Russia: Focusing on Creation and Reception of the National Theme and Folklore Ballets
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋健一郎、鈴木飛鳥、岩本きよら、塩野直之、企画・モデレーター: 平野恵美子
2. 発表標題 前奏曲とフーガ ~バッハから20世紀へ~
3. 学会等名 レクチャー・コンサート「前奏曲とフーガ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Emiko Hirano
2. 発表標題 Reception of the classical ballet in Japan and the dialogue between two traditions.
3. 学会等名 Marius Petipa on the World Ballet Stage. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 マリウス・プティパ生誕200周年によせてーロシアからパリを見ていた男
3. 学会等名 オペラ学研究会第16回例会・オペラ学ワークショップ第4回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 ロシア五人組とそれを取り巻く帝政ロシア末期の時代状況
3. 学会等名 セザール・キュイ没後100周年イベント『ベニヤヌスの鏡』（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 [マリウス・プティパとロシア・バレエ]
3. 学会等名 マリウス・プティパ生誕200周年記念：レクチャー+ピアノ+影絵で蘇る 幻のバレエ《魔法の鏡》OTTAVA Night vol.12
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Hirano
2. 発表標題 Perception of Dance and Ballet from Georgia in Japan
3. 学会等名 Dialogue between Georgia and Japan (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 ラフマニノフと鐘
3. 学会等名 日本ロシア文学会主催公開シンポジウム「ロシアの文化 その魅力と鑑賞法」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 バレエ《魔法の鏡》と1900年代ロシア帝室劇場における変化
3. 学会等名 第44回桑野塾
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 ロシア・バレエの生成との影響関係
3. 学会等名 オペラ学ワークショップ 越境とアマルガム “19世紀の首都” パリのオペラ文化 (オペラ学研究会第5回例会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 セルゲイ・ラフマニノフの音楽と生涯
3. 学会等名 『ラフマニノフの思い出』出版記念レクチャー・コンサート「ラフマニノフの夕べ」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野恵美子
2. 発表標題 イサドラ・ダンカンの贈り物
3. 学会等名 Isadora Duncan Heritage Society Japan
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 平野恵美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 未知谷	5. 総ページ数 480
3. 書名 帝室劇場とバレエ・リュス マリウス・プティパからミハイル・フォーキンへ	

1. 著者名 平野恵美子、沼野充義、望月哲男、池田嘉郎他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 886 (担当箇所: 404-405, 408-409)
3. 書名 ロシア文化事典	

1. 著者名 平野恵美子、前田ひろみ、沓掛良彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 403 (担当箇所: 171-290, 327-348, 361-394)
3. 書名 ラフマニノフの思い出	

1. 著者名 平野恵美子、丸本隆他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 452 (担当箇所: 418-426)
3. 書名 キーワードで読む オペラ / 音楽劇 研究ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----